

JESCO 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.202)

1. 令和3年「年賀式」を開催

1月4日(月)に、令和3年年賀式を開催しました。

式は新型コロナウイルス感染防止対策として2回に分けて実施し、JESCO及び運転会社の社員約80名が出席しました。青木所長からは「社長メッセージとして、昨年の新型コロナ対応に感謝し、今年もしなやかでねばり強い感染防止の継続をお願いする。令和3年はPCBの期限内処理に向けて、処分期間の令和3年度末を全うする仕上げの年である。本社と事業所の連携、行政と高いレベルでの信頼関係の維持によりPCB廃棄物の総ざらいを行い、取りこぼしなく確実にPCB処理を進めていく。また、豊田事業所長からは、PCB処理事業は地元の皆さんの信頼を基盤としている。そのためには不安全な状態をなくす、不安全な行動をしない、やるべきことをしっかりやり、今年も安全第一、ゼロ災で行こう。」との訓示がありました。

運転会社の田中社長からは、「PCB処理事業も終盤であり、運転会社としてもやりきる年にしたい。」等の訓示がありました。

式の最後に、運転会社の部長による号令のもと、参加者全員で「ゼロ災でいこう!」「よし!」の掛け合いコールを実施し、令和3年の無事故無災害を祈念しました。



2. 産業医による健康講話を聴く

豊田事業所では社員の健康管理の一環として、産業医による健康講話を定期的 to 実施しており、本年度第3回目を昨年12月22日(火)に開催しました。

今回は「新型コロナウイルス感染対策について」というテーマで実施されました。



各種マスクやフェイスシールドなどによる吐き出し飛沫量や吸い込み飛沫量の削減率についての講話があり、マスクは効果があるものの、フェイスシールドやマウスシールドでは小さな飛沫の吹き出しがあり、十分な効果が得られないことがわかりました。洗面所での歯磨きが原因と思われる「歯磨きクラスター」も、職場では他人事とは思えません。

三密(密閉・密集・密接)を避け、飛沫感染がないよう「距離」を取り、マスクを始めとする各種感染対策の重要性を再認識しました。

3. 普通救命講習(心肺蘇生法とAEDの使用)を実施

豊田事業所では、万が一に備え3階と5階にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。いざという時に、誰もが迅速かつ適切な救命行為とAED操作ができるように、JESCOと運転会社の社員は2年に一度救命講習を受講しています。



今年度は、1月に豊田市南消防署から講師(市民インストラクター2名)を招き、延べ75名が4回に分かれて、普通救命講習を受講しました。講習の内容は、①心肺蘇生法、傷病者の反応確認、119番通報、胸骨圧迫(心臓マッサージ)等、②心肺蘇生法を行いながらAEDを使用する実技訓練を実施しました。また、新型コロナ対応として人工呼吸講習は行わず、講師や受講者は距離を取って、三密防止を図りながら実習しました。

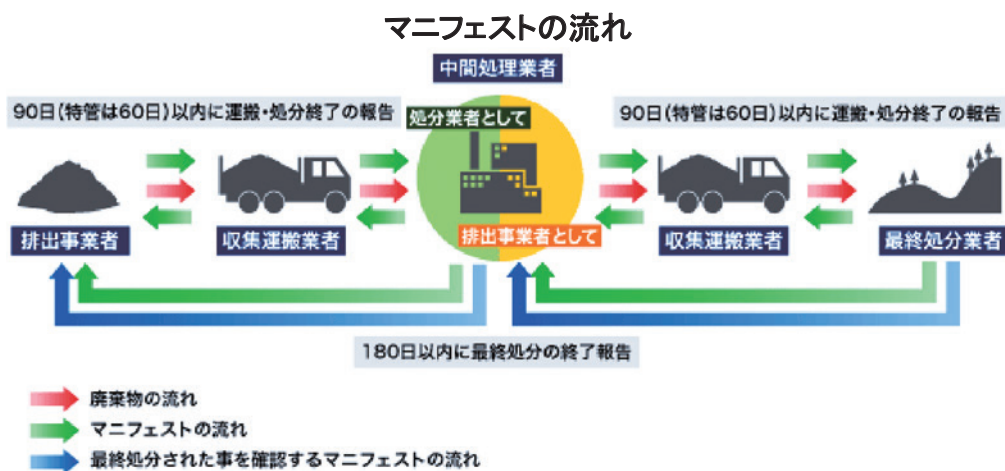
PCB処理事業紹介シリーズ 第39回

今回は産業廃棄物管理票(マニフェスト)をご紹介します。

マニフェストとは産業廃棄物の流れを自ら把握・管理するとともに、委託契約内容に基づき適正に処理されていることを確認するための仕組みです。

紙マニフェストはA、B1、B2、C1、C2、D、Eの7枚つづりとなっており、排出事業者、収集運搬事業者、処分業者の3者において、産業廃棄物の処理状況に関する情報のやり取りが行われます。また、マニフェストの情報を電子化し、情報処理センターを介したネットワークでやり取りする電子マニフェストもあります。

PCB廃棄物の処理が進む都度、処理状況が記載されたマニフェストがそれぞれの管理担当者に送られ、処理が適正に進んでいる事を確認することができます。



画像出典：公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター HP



デジ丸

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)

豊田PCB処理事業所 電話：0565-25-3110 FAX：0565-24-0543

【豊田PCB処理事業HP】 <https://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>

問い合わせ先

アザラシのびーちゃん

